

IV-16

スキースタイルに着目したスキーヤーの志向性

茨城大学 大学院 学生員 ○橋本 大輔
茨城大学 工学部 正会員 志摩 邦雄
茨城大学 工学部 正会員 小柳 武和

1.はじめに

現在スキー場では、大きく2つの変化が起こっている。ひとつは利用者意識の変化がある。景気の低迷により、スキー場にお金を落とさなくなったり、バブル期の頃には重視されていなかった「質」や「魅力」といったものに注目し始めている。もうひとつは、スノーボードやカービングスキーなどの登場によるスキーの楽しみ方（スキースタイル）の多様化である。

本研究は、スキー場や、その周辺で行われている楽しみ方の特徴（スキースタイル）に着目し、スキーヤーおよびスノーボーダー（以下総称してスキーヤーと呼ぶ）の志向性を明らかにすることを目的としている。具体的には以下の2点を目的とする。

- ①スキー場やスキー場周辺でのスキーヤーの意識を把握し、スキースタイルを抽出・分類する。
- ②抽出されたスキースタイル毎に、スキー場やスキー場周辺等における志向性を明らかにする。

2. アンケート調査の概要

スキーヤーにより近い目線で研究を行っていくために、アンケート調査を実施した。調査概要を表-1に示す。

3. スキースタイルの抽出および特徴の把握

3-1 スキースタイルの抽出

「たくさん滑る」、「のんびり滑る」といった11の択肢を変数として数量化3類分析を行った（図-1）。プロットされている選択肢の性格を考え、第1因子では、『アクティブ-のんびり弁別軸』と名付けた。第2因子は、『スポーツ-レジャー弁別軸』と名付けた。

次にグルーピングを行う。図-1において、互いの距離が近い、つまり類似性のあるものを○で囲んだところ、7つのスタイルに分類することができた。各スタイルの特徴をまとめたものを表-2に示す。

3-2 各スタイルが感じる魅力

各スタイルと、スキー場選択理由（コースが良いか

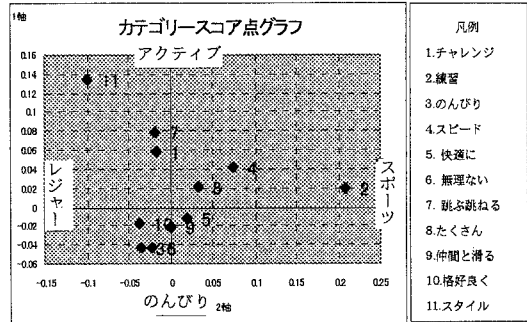


図-1 カテゴリースコアグラフ

表-1 アンケート調査の概要

調査期間	H10.12.26(土)～27(日)、H11.1.4(月)
被験者	257名(男性155名 60.3% 女性102名 39.7%)
箱庭スキー場	128名(49.8%) (男性68名 53.1% 女性60名 46.9%)
箕輪スキー場	129名(50.2%) (男性87名 67.4% 女性42名 32.6%)
質問形式	アンケート調査を用いたヒアリング形式
質問内容	質問1 属性(性別、レベル、年齢など) 『どんな人が』 質問2 楽しみ方に関する質問 『どんな楽しみ方をして』 質問3 志向性に関する質問 『何に魅力を感じているか』

表-2 各スタイルの特徴

スタイル	因子		選択肢	特徴
	第一因子	第二因子		
チャレンジ型	0.05828	-0.01567	1. チャレンジ	アクティブ性、レジャー性が強い。難し、インテンシブな挑戦をするといったような滑りを好む。
	0.07776	-0.01770	7. 飛ぶ跳ねる	
	0.02006	0.20875	2. 練習する	
たくさん型	0.04101	0.07406	4. スピード	アクティブ性、スポーツ性が強い。スピードを出したり、繰り返し滑ることを好む。
	0.02166	0.03302	8. たくさん	
	-0.04375	-0.03400	3. のんびり	
のんびり型	-0.04425	-0.02162	5. 快適に	のんびり、レジャー的性格が強い。滑るスピードやペースはかたりゆっくりである。
	-0.01286	0.01910	6. 無理ない	
	-0.02181	0.00001	9. 仲間と滑る	
見栄え型	-0.01744	-0.03617	10. 格好良く	格好良く滑ることや、人から注目されることを好む。どちらかと言えば、レジャー的要素が強い。
トレンド型	0.13490	-0.09870	11. 色々なスタイルで	スキー、スノーボード、カービングスキーなど色々なスタイルを楽しむ。レジャー的要素が強い。

らであるとか、温泉があるからなど）のクロス集計表を用いてクロス分析を行う。クロス表を縦に見て値の最も高いものと、横に見て値の高い項目を3つ選択し、その部分に網掛けを行う。この部分が各スタイルにおける魅力に感じるところであり、また特徴であるといえる。

図で色づけした部分は、縦横の値が高い部分である。

キーワード：スキースタイル、スキーヤー、志向性、

連絡先：茨城大学工学部都市システム工学科 〒316-8511 日立市中成沢町 4-12-1 TEL0294-38-5175 FAX0294-38-5249

表-3 スキースタイルの特徴

	コース				外的要素		受動的		
	コース	規模	規制	雪質	アクセス	自然	何となく誘われて	勤め	
チャレンジ	16.0	4.7	4.1	16.0	8.9	4.7	11.2	7.1	1.8
練習	17.4	4.3	0.0	17.4	17.4	4.3	4.3	4.3	4.3
たくさん	12.7	6.7	3.0	19.4	9.7	1.2	10.9	7.3	3.6
のんびり	8.2	4.4	2.5	12.5	12.8	2.2	11.4	10.9	3.3
快適	12.8	5.7	2.1	18.5	9.4	2.7	8.9	7.8	3.7
見栄え	8.8	2.9	8.8	14.7	11.8	2.9	11.8	5.9	5.9
トレンド	11.3	3.8	5.7	13.2	9.4	1.9	11.3	7.5	1.9

表-4 各スタイルの志向性

スタイル	魅力を感じるところ	具体的な内容
練習型	コース	形状 コースが長い、急斜面 中斜面
	外的要素	自然 豊かな自然
		アクセス 道路状況
		地域性 地方・町
	スキー場付帯施設	付帯施設 トイレや更衣室がきれいであること
		レストハウス おししき
		人間 スクール
たくさん型	周辺施設	温泉
	その他	近くに知り合いがいる
	コース	外的要素 雪質・天気
		形状 コースの長さ 混雑 空いている
のんびり型	受動的	何となく
	受動的	何となく誘われて
	外的要素	アクセス 自宅からの距離 主要道路からの距離
		自然 豊かな自然
	コース	外的要素 雪質・天気
		形状 コースの長さ コーダの広さ
	メディア	有名である
雰囲気	スキー場	明るい、落ち着いた、表情的、開放的な
	スキー場以外	庶民的な 森の中のような 穏やかな

表-3 は、その中からいくつかの項目を抜き出したものである。これを見ると、全てのスタイルで「雪質」に魅力を感じていることが分かる。また、「アクセス性」や「受動的」な理由についてもほとんどのスタイルで高い選択率になっているが、これについてはスタイル毎に多少の違いが出てきている。

4. スキースタイルに着目したスキーヤーの志向性

ここまでの分析で、スタイル毎の魅力に感じるところ、つまり志向性が明らかになった。さらにその志向性の詳細を明らかにしたものを加え、特徴的な志向性を示している練習型、たくさん型、のんびり型をそれぞれ表-4、図-2、3、4に示した。

図-2 の練習型は、非常に多くの要素を志向している事が分かる。このスタイルの性格である、「練習する」ということが、スキースクールを志向していることから良く分かる。図-3 のたくさん型は、コースに対する志向が強く、その他の要素については志向性があまり見られないことから、滑る事に大きな魅力を感じていることがわかる。図-4 ののんびり型は、他のスタイルがコースを

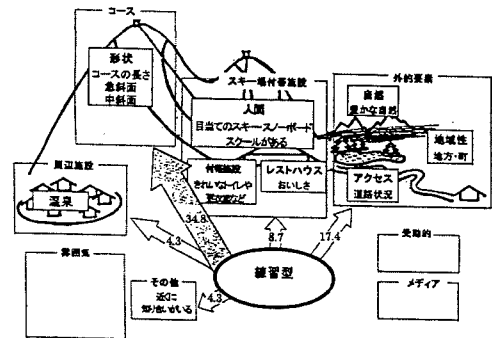


図-2 練習型の志向性

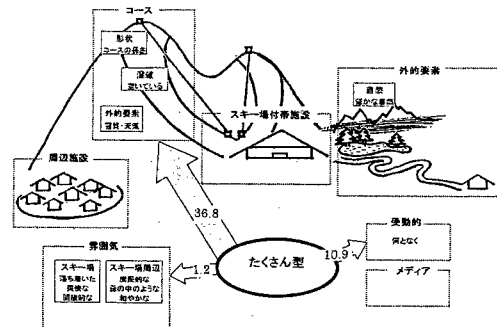


図-3 たくさん型の志向性

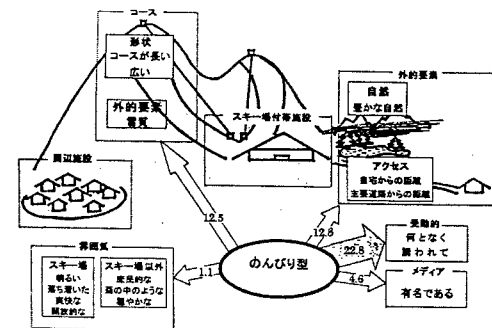


図-4 のんびり型の志向性

一番に志向しているのに対し、「何となく」「誘われて」など受動的に、あるいは雑誌等マスメディアに取り上げられている有名なスキー場を選んでいることが目立つ。

5. おわりに

本研究の主な結論は以下のとおりである。

- ①スキー場やスキー場周辺でのスキーヤーの意見を把握し、7タイプのスキースタイルを抽出・分類した。
- ②抽出されたスキースタイル毎に、スキー場やスキー場周辺等における志向性を明らかにした。

また、今後の課題としては、スキーヤーとスノーボーダーを考慮した志向性の把握、およびスキー場計画における評価・計画項目としての導入などが挙げられる。